

事業セグメント

2021年度の概況

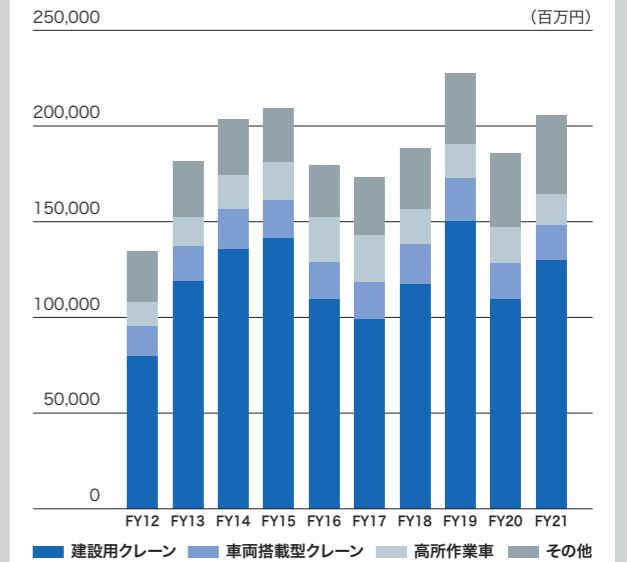
製品別売上高

製品別売上高は、建設用クレーンが1,304億6千1百万円(前期比119.2%)、その他の製品が407億7千7百万円(前期比105.7%)と前期に比べて売上高が増加しました。車両搭載型クレーンについては182億5千1百万円(前期比94.5%)、高所作業車については161億7千1百万円(前期比86.5%)と売上高が減少しました。この結果、2021年度の売上高は、2,056億6千1百万円(前期比110.5%)となりました。

■ 製品別売上高(20年度・21年度比較)

			比較増減	
	20年度	21年度	金額	増減率
建設用クレーン	109,430	130,461	21,030	19.2%
車両搭載型クレーン	19,314	18,251	-1,062	-5.5%
高所作業車	18,701	16,171	-2,530	-13.5%
その他	38,593	40,777	2,183	5.7%
合計	186,040	205,661	19,621	10.5%

■ 製品別売上高(12年度～21年度推移)



仕向地別売上高

欧州においては、需要が減少するも機種構成の変化により、304億8千7百万円(前期比110.3%)と前期を上回る売上高でした。欧州以外の海外各地域では需要の増加により、北米459億9千9百万円(前期比131.4%)、アジア140億3千9百万円(前期比127.5%)、中東59億2百万円(前期比100.1%)、その他152億1千9百万円(前期比150.3%)と前期を上回る売上高でした。中南米では、需要は増加したものの、売上高は10億2千8百万円(前期比33.3%)と減少しました。日本においては需要が増加したものの、車両搭載型クレーン・高所作業車の調達環境悪化による出荷遅れもあり、929億8千3百万円(前期比99.7%)となりました。海外売上高比率は、54.8%(前期49.9%)となりました。

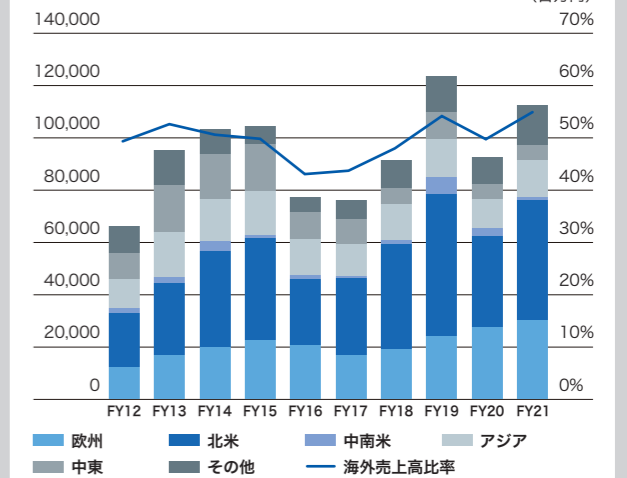
■ 仕向地別売上高(20年度・21年度比較)

			比較増減	
	20年度	21年度	金額	増減率
欧州	27,631	30,487	2,856	10.3%
北米	35,001	45,999	10,998	31.4%
中南米	3,092	1,028	-2,063	-66.7%
アジア	11,013	14,039	3,025	27.5%
中東	5,898	5,902	4	0.1%
その他	10,126	15,219	5,093	50.3%
小計(海外計)	92,763	112,678	19,914	21.5%
日本	93,277	92,983	-293	-0.3%
合計	186,040	205,661	19,621	10.5%

海外売上高比率 49.9% 54.8%

※その他には、オセアニア、アフリカ、CISを含んでいます。

■ 海外仕向地別売上高(12年度～21年度推移)



※日本は含んでいません。

※その他には、オセアニア、アフリカ、CISを含んでいます。



01 建設用クレーン

Mobile Cranes

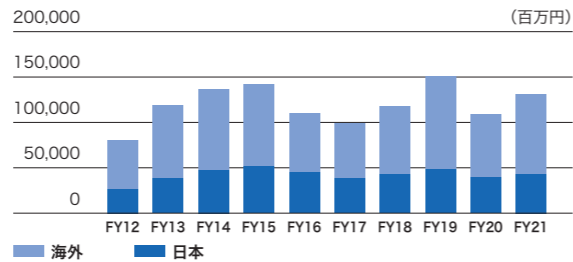
売上高

日本向け売上高は427億2千5百万円(前期比107.8%)、海外向け売上高は877億3千6百万円(前期比125.7%)と前期に比べて増加しました。この結果、建設用クレーンの売上高は1,304億6千1百万円(前期比119.2%)となりました。

■ 売上高(20年度・21年度比較)

	20年度		21年度	
	金額	増減率	金額	増減率
日本	39,615		42,725	7.8%
海外	69,815		87,736	25.7%
合計	109,430		130,461	19.2%

■ 売上高(12年度～21年度推移)



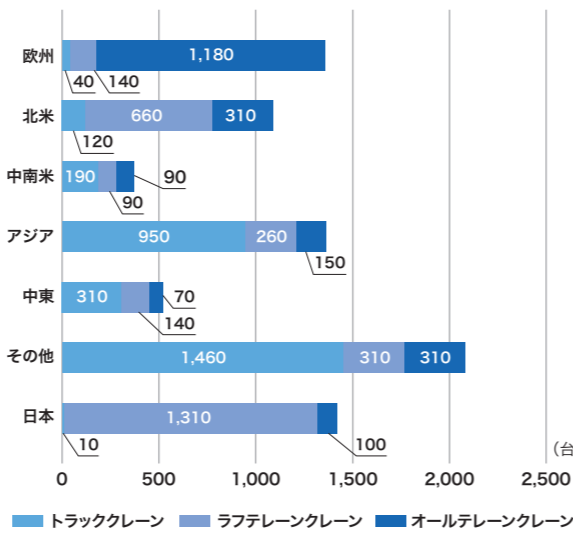
需要とシェア(台数ベース)

新型コロナウイルス感染拡大以降落ち込んでいた需要は回復傾向にあり、2021年の海外市場全体(中国を除く)の建設用クレーン需要は、前期比121.3%と増加しました。タダノ製品の世界全体におけるシェアは、前期の24%から4ポイント減少し、20%となりました。

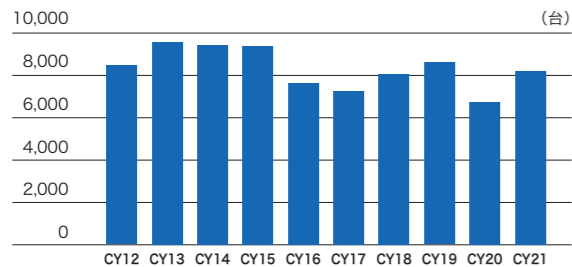
■ 需要・シェア(20年・21年比較/暦年ベース)

	需要			シェア	
	2020年1-12月	2021年1-12月	増減率	2020年1-12月	2021年1-12月
欧州	1,390台	1,360台	-2.2%	13%	12%
北米	980台	1,090台	11.2%	31%	36%
中南米	200台	370台	85.0%	11%	6%
アジア	1,020台	1,360台	33.3%	9%	7%
中東	480台	520台	8.3%	20%	7%
その他	1,170台	2,080台	77.8%	10%	6%
海外計	5,240台	6,780台	29.4%		
日本	1,520台	1,420台	-6.6%	54%	54%
合計	6,760台	8,200台	21.3%	24%	20%

■ 市場ごとの機種別需要(21年/暦年ベース)



■ 世界需要(12年～21年推移/暦年ベース)



※数値は当社推計(10台単位にて四捨五入)
 ※ロシア国産は含んでいません。
 ※中国国産の輸出を含んでいます。
 ※中国国産の中国市場向けは含んでいません。
 中国市場における中国国産の需要推移は次のとおりです。
 CY12:約2万2千台、CY13:約1万7千台、CY14:約1万4千台、CY15:約9千台、
 CY16:約9千台、CY17:約2万台、CY18:約3万2千台、CY19:約4万2千台、
 CY20:約5万4千台、CY21:約4万6千台

製品紹介

オールテレーンクレーン



AC 7.450-1

高速道路や橋梁工事などのインフラ整備、大型プラントやビルといった建築やメンテナンス工事などの現場などで活躍する大型クレーンです。舗装道路から不整地まであらゆる路面に適応し、大きなクレーン能力を持ちながら、後輪もしくは全輪軸操舵機能により小回り性にも優れています。
 (※欧州では分解走行が不要ですが、日本での一般道走行時は分解搬送が必要です。)

ラフテレーンクレーン



GR-250N

タダノの技術の粋を集めた主力製品。一つの運転席で走行とクレーン操作が行える自走式クレーンです。不整地や軟弱な地盤でも走行ができるほか、その小回り性を活かし、市街地や狭隘地などの現場でも活躍しています。海外では主に大規模プラントの建設・メンテナンスに使われています。

トラッククレーン



GT-750EL

専用または汎用トラックに架装したクレーンです。走行用とクレーン用の運転室が個別に設けられています。トラック同様迅速に作業現場まで自走し、クレーン作業を開始します。海外では高速走行性をもつ大型クレーンとして使われ、メンテナンスの容易性、コストパフォーマンスの高さから特に新興国で人気です。

伸縮ブーム式クローラクレーン



GTC-2000

広大なアメリカで、泥濘地を含めたさまざまな環境で効率よく作業するように開発されました。クローラキャリヤの低重心の利点を活かし、高さに余裕のないトンネルやプラント、オイルタンクなどの設置現場で荷を吊ったまま走行し、その強さを発揮します。

ラチスブーム式クローラクレーン



CC 38.650-1

より大きな吊り上げ能力を必要とする現場に適したクレーンです。他のタイプのクレーンよりも大きな吊り上げ能力(最大3,200トン)を備えており、高負荷時にも優れた操作性を保持することができます。その大きさにも関わらず、分解することで輸送が容易で、高まるクリーンエネルギー需要を背景に、風力発電関連工事をはじめ、世界各地で活躍の場を広げています。



02 車両搭載型クレーン

Truck Loader Cranes

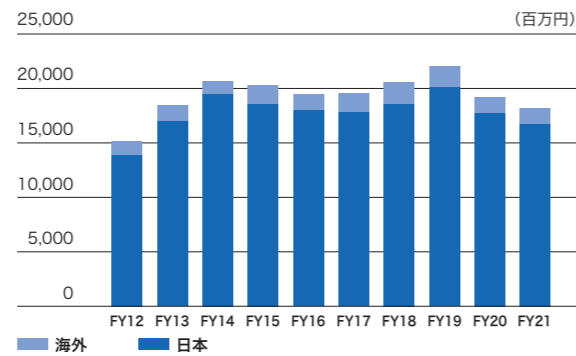
売上高・日本台数シェア

トラック登録台数の減少により、日本向け売上高は168億1千5百万円(前期比93.8%)となりました。海外向け売上高は、14億3千6百万円(前期比103.1%)と増したものの、車両搭載型クレーンの売上高は182億5千1百万円(前期比94.5%)となりました。

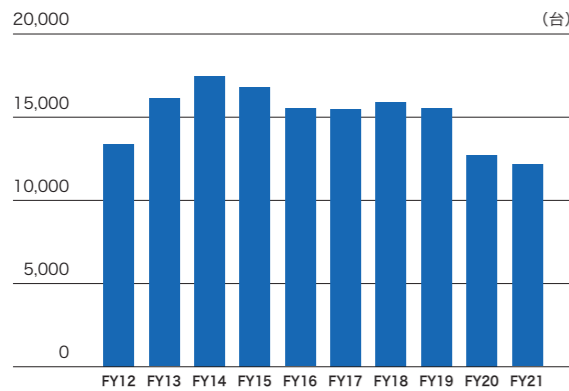
■ 売上高(20年度・21年度比較)

	20年度	21年度	比較増減 金額	増減率
日本	17,920	16,815	-1,105	-6.2%
海外	1,393	1,436	42	3.1%
合計	19,314	18,251	-1,062	-5.5%

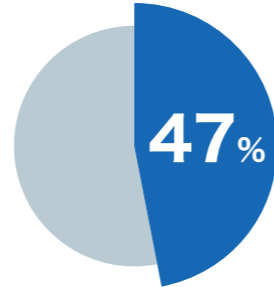
■ 売上高(12年度～21年度推移)



■ 日本需要(12年度～21年度推移)



■ 日本台数シェア(21年度)



製品紹介



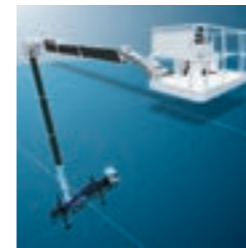
TM-ZE360

カーゴクレーン



TM-ZX364

運輸業や造園業、建設業など、さまざまな業種のお客様の荷役作業に使われている一番身近なクレーンです。トラックキャブの後ろなどに架装したもので、幅広い種類のトラックへの架装と豊富なクレーンのラインナップを取り揃えて多様なニーズに応えています。



03 高所作業車

Aerial Work Platforms

車両搭載型クレーン
高所作業車

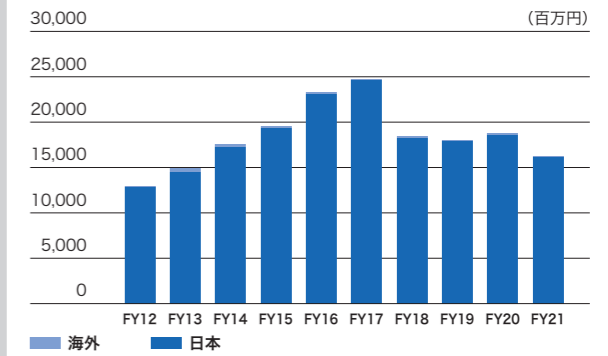
売上高・日本台数シェア

調達環境悪化による出荷遅れにより、日本向け売上高は161億2千5百万円(前期比87.2%)、海外向け売上高は4千5百万円(前期比22.2%)と減少しました。この結果、高所作業車の売上高は161億7千1百万円(前期比86.5%)となりました。

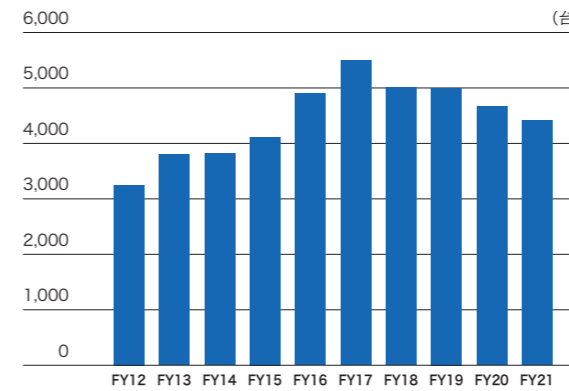
■ 売上高(20年度・21年度比較)

	20年度	21年度	比較増減 金額	増減率
日本	18,497	16,125	-2,371	-12.8%
海外	204	45	-158	-77.8%
合計	18,701	16,171	-2,530	-13.5%

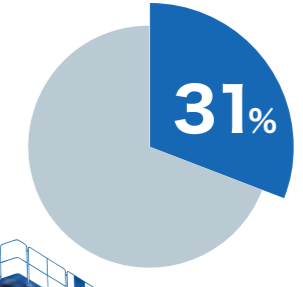
■ 売上高(12年度～21年度推移)



■ 日本需要(12年度～21年度推移)



■ 日本台数シェア(21年度)



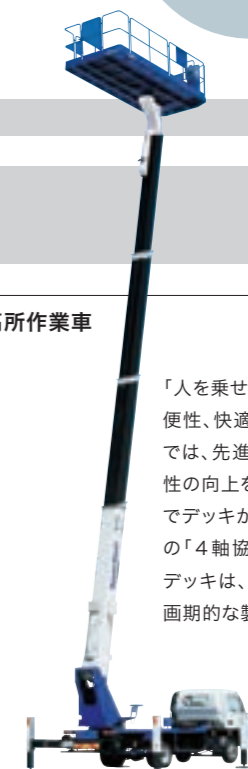
製品紹介



AT-320XTG

高所作業車

「人を乗せて作業する機械」であり、安全性、利便性、快適性がとりわけ重要になります。当社では、先進の制御技術で操作の簡便化、操作性の向上を推進しています。特に一つのレバーでデッキが垂直移動・水平移動できる世界初の「4軸協調制御」技術を搭載したスーパーデッキは、高所作業車に新しい歴史を開いた画期的な製品として高く評価されています。



AT-200S



04 その他

Others

売上高

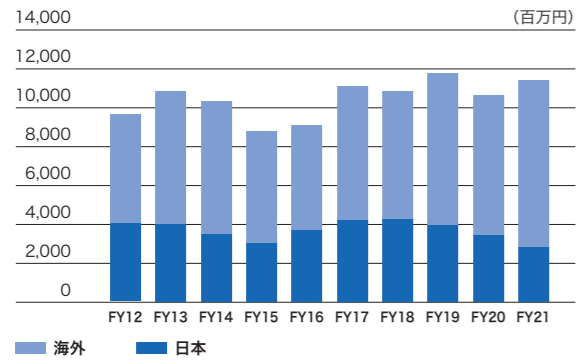
中古クレーン・商品の売上高は、海外での売上高が増加したことにより、114億6千8百万円(前期比107.7%)となりました。部品・修理他の売上高は、293億8百万円(前期比104.9%)と過去最高の売上高となりました。この結果、合計の売上高は、407億7千7百万円(前期比105.7%)となりました。

■ 売上高(20年度・21年度比較)

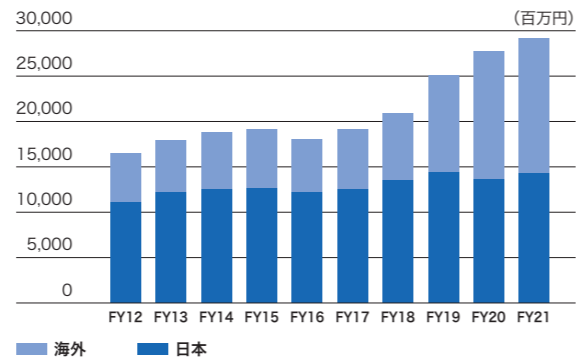
	20年度	21年度	比較増減	
			金額	増減率
中古クレーン 商品	10,649	11,468	819	7.7%
部品・修理他	27,944	29,308	1,364	4.9%
合計	38,593	40,777	2,183	5.7%

(百万円)

■ 中古クレーン・商品売上高(12年度～21年度推移)



■ 部品・修理他売上高(12年度～21年度推移)



四拍子そろったメーカー

当社は「商品力、製品品質、部品を含めたサービス力、中古車流動性」の四拍子そろったメーカーを目指しており、新製品の商品力、品質の向上はもとより、部品を含めたサービス力の強化、中古車流動性を高め中古車価値維持・向上を図っています。

その取り組みの一つに、保守部品の供給があります。日本国内では、7拠点の部品センターと神戸にあるグローバルパーツセンターとの連携による最速での部品出荷のほか、長年の実績に基づいて担当エリアごとに需要の多い部品を常時ストックし、製品のダウンタイム短縮の一翼を担っています。一方海外においてはシンガポールパーツセンターを設立し、日本・海外ともに更なるデリバリータイムの短縮を進めています。

また、お客様の修理コスト低減に貢献できるよう、再生事業にも注力しています。2017年には、再生取扱部品の認知度の向上とストックビジネスの拡大を目的に「タダノ再生ロゴマーク」を制定しました。軌道陸上兼用車など特殊製品のリフレッシュ、部品の調整や修理、生産終了部品の代替品の手配などにより、ダウンタイムの短縮や修理費用の抑制を実現しています。製品寿命を長く、価値を維持するだけでなく、環境にも優しい取り組みです。これらの取り組みは、当社製品の中古車が高く評価されている要因の一つとなっています。これらの活動を通じて末永く製品を活用していただける、ライフ・サイクル・バリューを高める取り組みを引き続き進めていきます。



感動サービスの提供を目指して

クレーンのダウンタイムはお客様のビジネスの損失に直結するため、当社では「感動サービスの提供」に取り組んでいます。ビフォーサービスでは、HELLO-NETを活用した、お客様、サービス工場、当社の3者間でメンテナンス状況や整備履歴を共有する、「タダノメンテナンスバック」や高度化したエンジンのメンテナンスに特化した「TADANOエンジンケアバック」の普及により、製品のダウンタイムや整備不良による故障の減少を目指しています。

アフターサービスでは、日本は10支店と23営業所に加え、全国342か所の認定サービス工場と881名の認定サービスエンジニアによるサービス体制を構築しています。海外では直接サービスに加え、140か所を超える代理店が世界をカバーしています。その他体制整備とともに進めているのが、サービスの質を高める取り組みです。現地開催だけでなく、IT技術を取り入れWEBを活用し遠隔地からでも受講を可能とした技術講習会のほか、トレーニングセンターでの体系的、かつ先端技術を取り入れた教育で、日本・海外のサービスエンジニアの人財育成を進めています。

また、VR(バーチャルリアリティ/仮想現実)を活用した体感型の安全教育を導入するなど、作業中の事故防止にも力を入れています。



VR(バーチャルリアリティ/仮想現実)を活用した体感型の安全教育